

「ワンヘルスの森 四王寺ビジターセンター(仮称)」等  
整備基本計画

令和8年 3 月





# 目次

第1章 基本計画策定の背景・目的	
1.1 はじめに	1
1.2 「ワンヘルスの森 四王寺」について	2
第2章「ワンヘルスの森 四王寺」整備基本構想	
2.1 「ワンヘルスの森 四王寺」の目指す姿	6
2.2 「ワンヘルスの森 四王寺」の課題	6
2.3 整備方針	7
第3章 ワンヘルスの森 四王寺ビジターセンター(仮称)の整備計画	
3.1 備えるべき機能	8
3.2 整備方針	9
3.3 管理、運営体制等	10
3.4 展示テーマ等	11
3.5 施設規模等の検討	13
3.6 イメージ図(案)	20
3.7 仮設管理事務所	21
第4章 展望デッキの整備計画	
4.1 施設規模等の検討	23
4.2 イメージ図(案)	26
第5章 概算事業費	27
第6章 PFI方式導入の検討	
6.1 検討方法	28
6.2 検討結果	29
第7章 工程計画	30
参考資料	
ビジターセンターの基本的性能	



# 第 1 章 基本計画策定の背景・目的

## 1.1 はじめに

### 1.1.1 背景

「福岡県立四王寺県民の森」は、明治百年記念事業として 1976(昭和 51)年に大野城市、太宰府市、糟屋郡宇美町にまたがる四王寺山に設置されました。都市近郊にありながら、豊かな自然を有し、国の特別史跡「大野城跡」に位置するなど、自然も歴史も楽しめる広さ 342ha の森林公園です。

県では、2020(令和2)年に、人と動物の健康と環境の健全性を一体のものとして守り、その活動を次世代に継承していくため、「福岡県ワンヘルス推進基本条例」を制定しました。これを契機に、四王寺県民の森を「ワンヘルスの森」に位置づけ、県民のワンヘルスに対する理解促進と心身の健康づくりを進めています。

今後、より多くの方の来訪を促し、ワンヘルスの理念を広めるためには、「ワンヘルスの森」の更なる施設、設備の充実を図ることが必要です。

### 1.1.2 目的

本計画は、関係者の意見や様々な調査・検討を踏まえ、「ワンヘルスの森」に整備する「ワンヘルスの森 四王寺 ビジターセンター(仮称)」及び「展望デッキ」の基本的な整備計画をとりまとめたものです。



写真 1 「ワンヘルスの森 四王寺」の全景



写真 2 園内の様子

## 1.2 「ワンヘルスの森 四王寺」について

### 1.2.1 立地の特性

福岡市中心部の南東約 12km に位置する都市近郊林で、大野城市、太宰府市、糟屋郡宇美町にまたがります。高速道路や鉄道など交通アクセスが良く、太宰府天満宮や九州国立博物館といった観光地からも近い立地です。

「ワンヘルスの森 四王寺」へは町道や林道により三方向から自動車アクセスできます。北側は宇美町の町道「長谷-四王寺線」、南東側は太宰府市の林道「四王寺線」、西側は大野城市の林道「大城線」や「雉子ヶ尾線」が接続しています。

約 50 年にわたり森林公園として管理され、県民の森センターを中心に遊歩道が整備されており、登山や散策など幅広い層に親しまれています。

### 1.2.2 自然の特性

#### (1)地形

四王寺山は、標高約 270m の盆地を中心に、最高峰 410m の大城山をはじめ大原山、水瓶山、岩屋山から構成されるすり鉢状の山容です。北側が開けて宇美町中心部とつながり、山の縁は古代山城の土塁として歴史的な名所となっています。縁の内部は緩斜面で、外側は急傾斜です。



図1 ワンヘルスの森 四王寺 位置図



図2 ワンヘルスの森 四王寺 広域図



写真3 宝満山から見る四王寺山

## (2)気候

四王寺山が位置する北部九州は日本海型気候区に属し、年平均気温は 16～17℃と比較的温暖的な地域です。秋から春にかけては霧が発生し、冬には雪が降ることもあります。

## (3)動植物

四王寺山は標高 100～410m で照葉樹林帯に属し、スギ、ヒノキなどの人工林が多いものの、二次林や天然林も見られます。

園内には草地や水田も保たれており、ロクオンソウ、キキョウ、スズサイコなどの希少植物のほか、九州では珍しいセリバオウレンも確認されており、多様で貴重な植物が生育しています。

また、カワセミやオオルリ、ノスリなど多様な鳥類のほか、イノシヤタヌキ、キツネなどの哺乳類も生息しています。

溪流には、ドジョウやアカハライモリ、ニホンヒキガエルなど希少な魚類や両生類が生息しています。



写真 4 人工林



写真 5 落葉樹の紅葉

### 1.2.3 歴史的特性

四王寺山は全域が国の特別史跡「大野城跡」に指定されています。大野城は7世紀、唐・新羅との緊張下で百済の築城技術を取り入れて築かれた山城で、土塁や石垣が東西 1.5km、南北3kmに広がります。主に米の備蓄倉庫と考えられる建物跡が約 70 棟確認されており、礎石群や「焼米ヶ原」など、当時の遺構を見ることができます。

また、四王寺山は古くから祈りの聖地とされ、774(宝亀5)年には鎮護国家のため四天王像を安置する寺(四王寺)が建立されました。さらに、洪水や大火事、流行り病などの凶事が続いた江戸時代には、観音菩薩の御利益を願い三十三石仏が建立されました。



写真 6 セリバオウレン

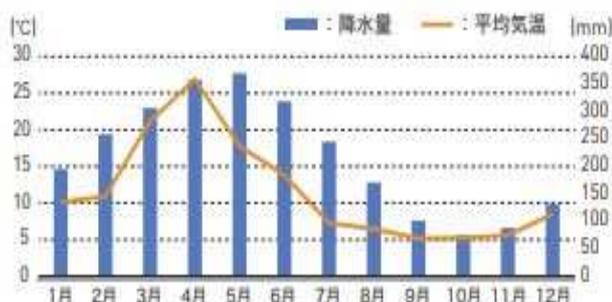


図 3 過去 30 年間(1991 年-2020 年)の平均気温と降水量  
(資料:気象庁 HP 太宰府観測所)



写真 7 大野城跡の礎石群

#### 1.2.4 「ワンヘルスの森 四王寺」の位置づけ

自然とのふれあいは、人々が自然を大切にする心を育むとともに、心身の健康増進をもたらします。豊かな自然が広がり、多様な動植物が生息する「ワンヘルスの森 四王寺」は、自然を五感で楽しみながら、健康づくりや生物多様性の学習など、ワンヘルスを実践できる森林公園です。

このため、県では、四王寺県民の森を、ワンヘルスを象徴する施設として「ワンヘルスの森」と位置づけ、ワンヘルスの理念を自然の中で実感できる森として整備しています。

重点施策⑨

**【ワンヘルスの森づくり】**

「四王寺県民の森」は、県の中央部に位置し、大野城市、太宰府市、宇美町にまたがる340haの森林公園で、年間約20万人が利用しています。園内には多様な樹木とともに野生生物が生息しており、あわせて遊歩道コースが縦横に整備されているなど、来場者のニーズに合わせた多彩な森林散策が可能です。

この四王寺県民の森を、ワンヘルスを象徴する施設として「ワンヘルスの森」と位置づけ、「人と動物の健康と環境の健全性は一つ」というワンヘルスの理念を自然の中で実感できる森として整備することで、ワンヘルスに対する理解の促進と心身の健康づくりにつなげます。



四王寺県民の森全景



森林散策のイメージ

図4 福岡県ワンヘルス推進行動計画(2022(令和4)年3月策定)

#### 1.2.5 これまでの取組

県では、県民のワンヘルスに対する理解促進と心身の健康づくりを進めるため、様々な取組を行ってきました。

具体的には、2022(令和4)年11月に開催された第21回アジア獣医師会連合(FAVA)大会のエクスカージョンを契機に、ワンヘルスの理念などを多言語で表記した案内板や、「ワンヘルスの森 四王寺」に生息する動植物や森林浴の効能などを学べる「ワンヘルスの森ミュージアム」を整備しました。

また、2023(令和5)年1月からは、より多くの方に自然の中でワンヘルスを実感していただくため、ワンヘルスの説明や森の案内を行うガイドによる「森林浴体験ツアー」を実施しているほか、同年11月からは、この体験ツアーに併せて、紅葉を楽しむライトアップイベントも開催しており、好評を博しています。

更に、「ワンヘルスの森 四王寺」は、県内の小・中・高等学校におけるワンヘルス教育のフィールドとしても活用が広がっており、2023(令和5)年度以降、多くの児童・生徒が社会科見学や遠足等の校外学習で訪れました。

なお、県では 2006(平成 18)年度から四王寺県民の森に指定管理者制度を導入し、指定管理者による管理運営を行っています。指定管理者は、施設の管理に加え、森林浴や木工工作体験、歴史探索といったイベントの開催や、ホームページ、SNS等による施設のPRなど、創意工夫や柔軟な運営により、県民サービスの向上に努めています。

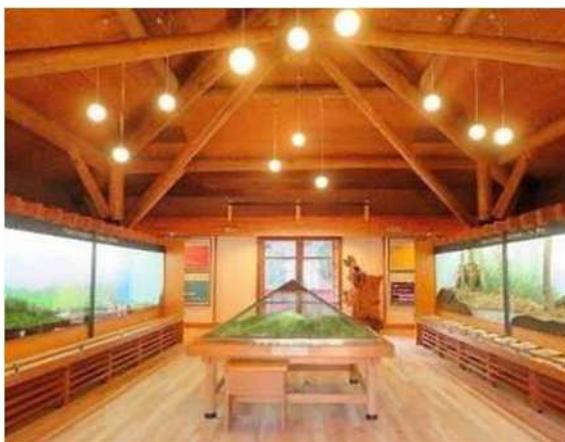


写真 8 ワンヘルスの森ミュージアム



写真 9 森林浴体験ツアー

## 第2章 「ワンヘルスの森 四王寺」整備基本構想

今後、より多くの方の来訪を促し、ワンヘルスの理念を広めるためには、「ワンヘルスの森」の更なる施設・設備の充実を図ることが必要です。

このため、2023(令和5)年度に県庁関係課で構成する「ワンヘルスの森 四王寺」施設整備庁内検討委員会(以下「委員会」)を設置し、全庁横断的な検討を重ねてきました。

そして、委員会での検討結果を踏まえ、2025(令和7)年3月に「ワンヘルスの森 四王寺」の目指す姿や具体的な整備計画等を取りまとめた「ワンヘルスの森 四王寺」整備基本構想を策定しました。

基本構想の内容は、以下のとおりです。

### 2.1 「ワンヘルスの森 四王寺」の目指す姿

- 自然を五感で楽しみながら誰もが健康づくりに取り組むとともに、自然と歴史が融合した「ワンヘルスの森」ならではの体験ができる場
- ワンヘルスの考え方を広く普及・啓発するとともに、ワンヘルスについて学ぶことができる場

### 2.2 「ワンヘルスの森 四王寺」の課題

「ワンヘルスの森 四王寺」の現状や県民ニーズを把握するために実施した「観光動態調査」(2023(令和5)年度)及び「観光マーケティング調査」(2024(令和6)年度)の結果を参考に、「ワンヘルスの森 四王寺」の目指す姿を実現するための課題を以下のとおり整理しました。

- 森林浴に森林医学<sup>※</sup>や四王寺山の歴史といった新たな視点を取り入れるとともに、幅広い年齢層やインバウンドの集客に繋がるコンテンツが必要。
- 天候や季節に左右されず、高齢者や障がい者など誰もが気軽に森林浴を体験できる施設が必要。
- ワンヘルスに関する学習機能を備えたビジターセンターの整備が必要。
- 年間を通じた集客に向け、都市近郊、豊かな自然、眺望といった四王寺山が持つポテンシャルを活かした若者が楽しめるイベントや県民ニーズが高い飲食物を提供するサービスが必要。

※森林医学:森林浴の効果や影響を人間の健康増進や病気の予防、さらには免疫力の強化などに活用する医学

## 2.3 整備方針

目指す姿と課題を踏まえ、「ワンヘルスの森 四王寺」の整備方針は以下のとおりとしました。

- ワンヘルスの考え方を広く普及・啓発するため、「ビジターセンター」を整備
- 自然と歴史が融合した「ワンヘルスの森」でしか体験できない森林浴を実現

上記整備方針に基づき、現在の管理棟を、従来の公園の管理運営機能に加え、ワンヘルスに関する学習機能を備えた「ワンヘルスの森 四王寺ビジターセンター(仮称)」にリニューアルするとともに、園内の周辺環境整備を行うこととしました。

具体的には、以下の施設・設備を整備する方針です。

- ・ 森林と関係が深いワンヘルス分野について学べる展示学習室や研修室を備えた、木造のビジターセンター（県産木材 CLT\*やセンダン材を積極的に使用）
  - ※CLT:Cross Laminated Timber(直交集成板)の略。板の層を各層で互いに直交するように積層接着した厚型パネル。
- ・ 古代の歴史的な空間が見渡せる木製の展望デッキ（ワンヘルスを象徴するセンダンを積極的に使用）
- ・ 人と愛玩動物が共に森林浴を楽しみながらふれあえる、愛玩動物とのふれあいスペース
- ・ こども達が楽しく安全に遊べる木製遊具
- ・ 来訪者が快適に森林内を散策できる遊歩道

また、以下のデジタルコンテンツの開発や、集客力を高めるイベントの企画を実施する方針です。

- ・ 森林医学に基づく森林浴の効能を、体験者が視覚的に確認できるシステム
- ・ 文化財や希少な動植物等をいつでも AR(拡張現実)で再現できるシステム
- ・ 樹木を活かしたライトアップやイルミネーションイベント

### 第3章 ワンヘルスの森 四王寺ビジターセンター（仮称）の整備計画

「ワンヘルスの森 四王寺」整備基本構想のほか、来訪者や関係者の意見等を踏まえ、ワンヘルスの森 四王寺ビジターセンター（仮称）の整備計画は、以下のとおりとしました。

#### 3.1 備えるべき機能

ビジターセンターは、従来の公園の管理運営機能に加え、ワンヘルスに関する学習機能を備える必要があります。具体的には、以下のとおりです。

表1 ビジターセンターが備えるべき機能

備えるべき機能	内容
案内機能	園内の案内、気象情報や自然、施設の状況に関する情報など、各種情報を提供する機能。
解説・学習機能	ワンヘルスや四王寺山の自然、歴史等について分かりやすく解説する機能。
体験促進機能	ワンヘルスガイドによる森林浴や自然学習、愛玩動物とのふれあい、緑の少年団の活動といった、来訪者が行う体験活動を支援する機能。また、森林浴の効果の測定やバーチャル森林浴体験を促進する機能。
休憩・避難機能	来訪者へ快適な休憩利用を提供する機能。また、簡易的な物販、飲食を提供する機能。
管理・運営機能	園内の各施設の点検や補修といった維持管理、美化清掃や自然環境保全などを実施する機能。

## 3.2 整備方針

### 3.2.1 基本理念

上記のように、ビジターセンターは、森とまちからの来訪者をつなぐ入口としての役割や、来訪者がワンヘルスの理念を学び体験活動を行う場としての役割を担います。

すり鉢状の形をした四王寺山を「生態系のうつわ」に見立て、ビジターセンターを人と自然が共存する四王寺山の一部と捉えることとします。

これを踏まえ、ビジターセンター整備における基本理念を以下のとおりとします。

森とまちをゆるやかにつなぎ、ワンヘルスの理念を体現する建築

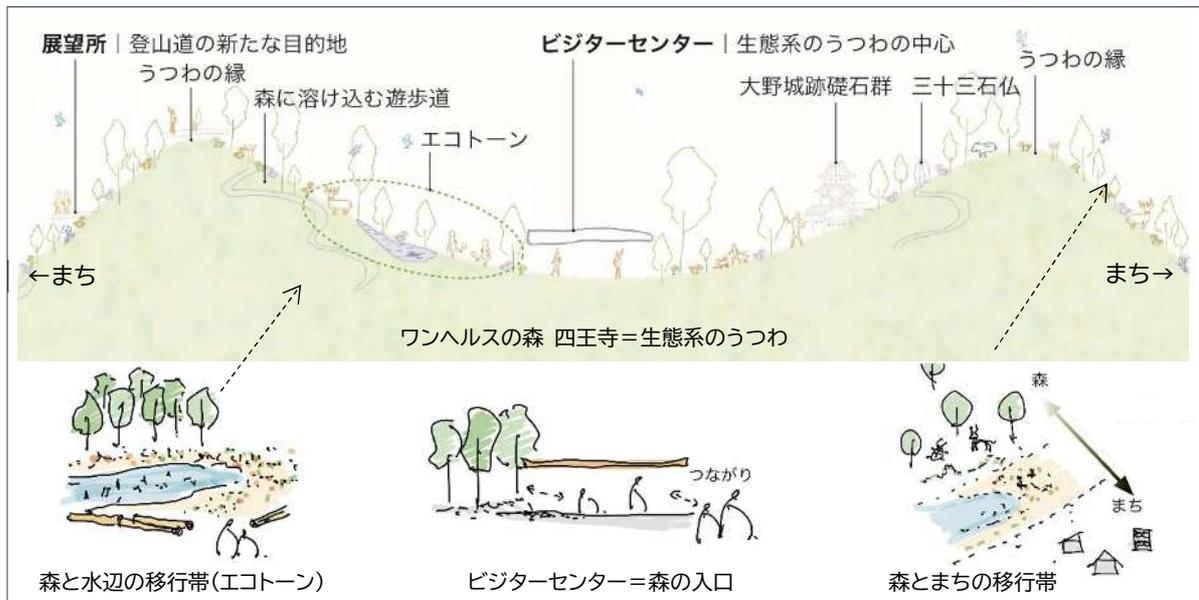


図5 ワンヘルスの森 四王寺とビジターセンターの概念図

### 3.2.2 基本計画方針

基本理念を実現するための基本計画方針は、以下のとおりです。

- いつでも気軽に森林浴を楽しめる場づくり  
天候や季節に関わらず森林浴を体験し、健康づくりを行える場を作ります。
- ワンヘルス学習の場づくり  
森林に関係が深いワンヘルス分野について学習し、ワンヘルスの視点から身の回りのことを見つめるきっかけとなる場を作ります。
- 管理運営と情報発信の拠点づくり  
ワンヘルスの森や園内の各施設の管理のほか、自然に関する情報提供、森林浴体験ツアーの運営など、ワンヘルスの森の拠点施設として来訪者と森をつなぐ場を作ります。

### 3.3 管理、運営体制等

#### (1)開館時間

ビジターセンターの開館時間は、四王寺県民の森の運営時間に準じることを想定しています。

#### (2)入場料

ビジターセンターの入場料は、ワンヘルスの普及のための学習施設であることを踏まえ、基本的には無料としますが、一部施設の利用については、有料とすることを検討します。

#### (3)管理、運営体制

管理運営については、引き続き、現状の指定管理制度に基づくことを想定しています。

なお、指定管理業務に含まない指定管理者による自主事業として、体験型コンテンツの有料提供や関連商品の販売などの実施が考えられます。

ビジターセンターには、従来の公園の管理運営機能に加え、ワンヘルスに関する学習や体験を提供する機能が追加されることから、案内や解説を行うスタッフが必要となります。

### 3.4 展示テーマ等

森林に関係が深いワンヘルス分野及び、四王寺山の自然と歴史について、分かりやすく解説する展示を行います。

#### (1) 展示テーマ

具体的な展示テーマは以下の4つとします。

表 2 展示テーマ

テーマ	概要
人獣共通感染症対策	<ul style="list-style-type: none"><li>・SFTS(重症熱性血小板減少症候群)といった人獣共通感染症に関する展示を行います。</li><li>・人獣共通感染症の増加の背景やリスクを正確に伝えることで、理解と実践につなげます。</li></ul>
生物多様性	<ul style="list-style-type: none"><li>・生物多様性や地球温暖化、環境保護などワンヘルスに関する展示を行います。</li><li>・「なぜ毎年、大雨が降ったり暑い日が続いたりするの?」のように、来訪者が日頃感じている疑問に対する答えを探していくプロセスを展示します。</li></ul>
森林浴を通じた健康づくり	<ul style="list-style-type: none"><li>・血圧の低下やストレスホルモンの減少といった森林浴の効果を説明する展示を行うほか、森林浴の前後で自律神経バランスの測定を行い、森林浴の効果を分かりやすく表示します。</li><li>・また、高齢者や小さな子ども連れ、身体が不自由な方、雨天時や猛暑日でも森林浴を屋内で気軽に体験できるバーチャル森林浴体験ルームを設けます。</li></ul>
四王寺山の自然と歴史	<ul style="list-style-type: none"><li>・四王寺山の自然と歴史に関する展示を行います。</li><li>・古代山城「大野城」について、国外からの侵略や飢饉に備えて作った備蓄倉庫などの解説を行うとともに、ワンヘルスの考え方との関係性を解説することで、ワンヘルスの森ならではの学習につなげます。</li></ul>

## (2) 展示内容及び手法

展示テーマ毎の展示項目、内容、手法は、以下のとおりで、内容は中学生が理解できる程度とします。

なお、展示・体験手法は、ランニングコストが過大にならないよう配慮します。

表3 展示テーマ毎の展示内容及び手法

テーマ	項目	展示内容	展示・体験手法(案)
人獣共通 感染症対策	感染症増加の 背景	・人口の増加や自然環境の悪化、地球温暖化がもたらす影響について解説します。	・壁面グラフィック
	感染症の種類と 感染経路	・SFTSといった、人獣共通感染症について解説します。 ・野生動物から人への感染経路を解説し、来訪者自身が対策を考える展示とします。	・壁面グラフィック ・床面グラフィック
	動物との 関わり方	・野生動物、愛玩動物との関わり方を解説し、来訪者に合わせた具体的なアクションを提示します。	・壁面グラフィック
生物多様性	生物多様性 環境保護	・生態系のつながりを可視化し、生物多様性の重要性を伝えます。 ・来訪者自身が身近にある疑問とその答え探しができる展示とします。	・壁面グラフィック
	四季の動植物	・四王寺山に生息する季節の花や鳥などを紹介します。	・壁面グラフィック
森林浴を 通じた 健康づくり	森林浴と 健康づくり	・森林浴の効果を説明する展示を行うほか、四王寺山で撮影した映像を用いてバーチャル森林浴を行います。	・壁面グラフィック ・音響展示
四王寺山の 特徴	自然	・山の成り立ちや地形の特徴、自然環境について解説します。	・模型展示 ・床面グラフィック ・壁面グラフィック
	歴史	・古代山城、倉庫群、水城など、四王寺山の歴史について、ワンヘルスの考え方との関係性も含め解説します。	・模型展示 ・映像展示 ・壁面グラフィック

### 3.5 施設規模等の検討

#### 3.5.1 建設地概要

ビジターセンターは、文化財保護法による現状変更の規制を踏まえ、原則現在地とします。現在の敷地の概要は以下のとおりです。

表 4 ビジターセンター建設予定地の敷地概要

敷地概要	
所在地	福岡県糟屋郡宇美町大字四王寺207
土地所有者	福岡県
用途地域	都市計画区域内(非線引き区域)
防火地域	指定無し
指定区域	崩壊土砂流出危険地区
道路幅員	11.09m
敷地面積	9,754.83 ㎡
インフラ	<p>電気:敷地内に九州電力の電柱あり</p> <p>ガス:敷地周辺に都市ガスの敷設無し プロパンガスは利用可能</p> <p>上水:井戸水 ※水質改善のため、井戸、配管、ポンプは全て改修</p> <p>下水:汲取式 ※浄化槽式に変更する</p> <p>電話:屋外架空又は、地中埋設により電話線の引き込み可能</p> <p>通信:光通信なし</p> <p>テレビ:既存アンテナあり</p>
主な既存施設	<p>① 県民の森センター</p> <p>竣工年度:1975(昭和 50)年度</p> <p>建築面積:428.30 ㎡</p> <p>延床面積:317.16 ㎡</p> <p>構造:S造(一部木造) 平屋</p> <p>トイレ:汲取式、簡易水洗</p>  <p>② ワンヘルスの森ミュージアム</p> <p>竣工年度:1975(昭和 50)年度</p> <p>建築面積:240.24 ㎡</p> <p>延床面積:364.50 ㎡</p> <p>構造:RC 造(一部木造) 2 階建</p> 

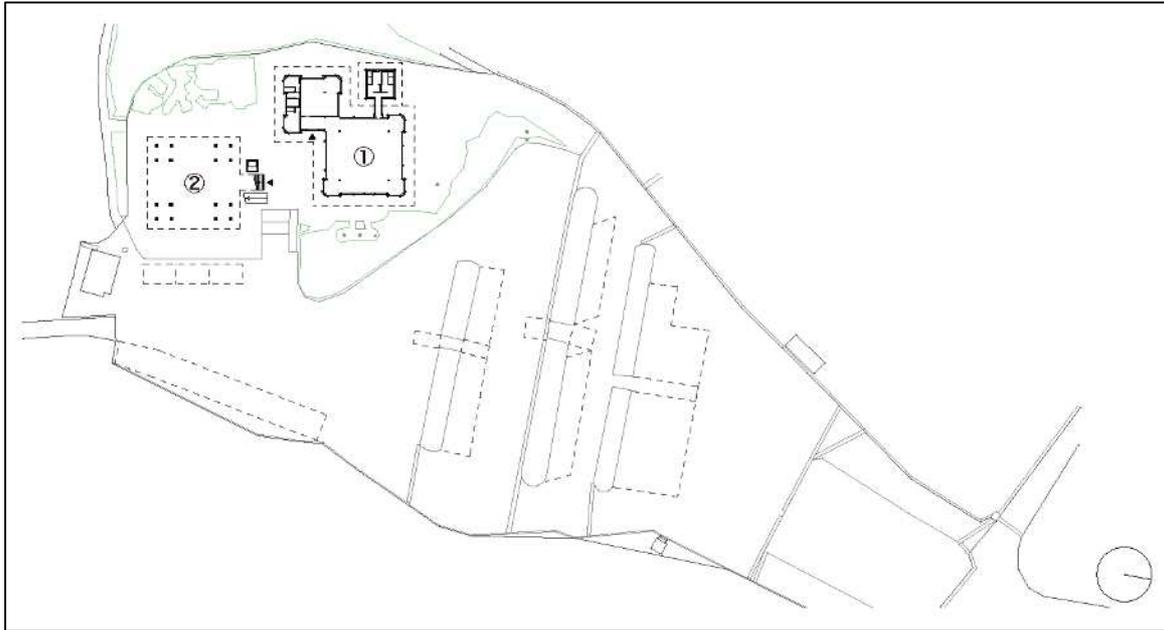


図 6 現況敷地平面図

### 3.5.2 関連法令

「ワンハルスの森 四王寺ビジターセンター(仮称)」の整備を行うにあたり、遵守が必要な主な関連法令は、以下のとおりです。

表 5 関連法令

法律名等	主な規制内容
都市計画法	本敷地は都市計画区域内の非線引き区域に位置します。3,000 m <sup>2</sup> 以上の開発行為については開発許可を取得する必要があります。
建築基準法	計画通知並びに各種適合判定への申請手続きが必要となります。
建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律	建築物のエネルギー消費性能基準への適合義務等の措置が求められています。
消防法	建物の構造や規模に応じて、消火設備、警報設備、避難設備などの消防用設備が義務付けられます。
自然公園法	建築物に対し、眺望や地形勾配、道路からの距離等に関する規制があります。
文化財保護法	特別史跡地の現状を変更する場合は、文化庁長官の許可が必要となります。
宅地造成及び特定盛土等規制法	規制区域内で一定規模の盛土や切土工事を行う際には、事前の許可申請や届出が必要です。
浄化槽法	浄化槽の設置や廃止等に当たって、各種届出が必要です。

森林法	四王寺山は森林法に基づく保安林に指定されています。立木の伐採や土地の形質の変更等を行う場合、都道府県知事の許可や市町村長への届出が必要になります。
福岡県福祉のまちづくり条例	「まちづくり施設」を新築等する場合、整備基準に適合させる必要があります。「特定まちづくり施設」を新築等する場合、知事に届出が必要です。
福岡県立自然公園条例	建築物の屋根や壁の色彩・形態は、周辺の景観との調和が必要です。
宇美町開発行為等指導要綱	区画の変更や一定規模の形の変更等を行う場合、町への届出が必要になります。

### 3.5.3 施設概要

ビジターセンターの建築に関する施設規模等の条件を以下に示します。

表 6 ビジターセンターの施設規模等

項目	内容
規模	木造平屋※ ※「福岡県内の建築物等における木材の利用の促進に関する方針」に基づき、原則木造とします。また、景観に配慮して平屋とします。
用途	展示場
付帯設備	管理用駐車場、スロープ、屋外広場
その他 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の木造建築の先駆的モデルとなるよう、床、壁、天井といった構造材には、県産木材 CLT を積極的に使用します。</li> <li>・内装材や家具等には、ワンヘルスの象徴である早生広葉樹のセンダンのほか、県産広葉樹を積極的に使用します。</li> <li>・利用者及び職員の利便性や安全性、ユニバーサルデザインに配慮します。</li> <li>・施設・設備の整備にあたっては、省エネルギー性や経済性に配慮します。</li> <li>・ビジターセンターの基本的性能は、参考資料のとおりとします。</li> <li>・ワンヘルスの森ミュージアムとの往来のしやすさに配慮します。</li> <li>・現在のスロープ付近にある礎石(文化財)の取り扱いに配慮します。</li> </ul>

### 3.5.4 施設計画

#### (1)各所要室面積

ビジターセンターに必要な諸室と目安の面積等は以下のとおりです。

表 7 必要な諸室の概要

機能	諸室	目安の面積(m <sup>2</sup> )	概要
展示 学習 部門	展示学習室	138	・来訪者が人獣共通感染症対策や生物多様性など、森林と関係が深いワンヘルス分野について学習
	バーチャル森林浴 体験ルーム	64	・360度カメラで撮影したワンヘルスの森の映像を屋内の天井と壁の5面に投影。スギやヒノキから発散される香り成分(フィトンチッド)を感じられる装置を設け、実際に森にいるような体験を提供
	研修室	174	・修学旅行、校外学習、県外からの視察、インバウンドといった来訪者に対し、研修や木工体験、観察会などを実施 ・最新のデジタル機材と十分な収容人数を確保
管理 部門	事務室	46	・職員の執務室 ・来館者対応や、愛玩動物とのふれあいスペースの受付機能
	屋外倉庫	36	・屋外で使用する備品を保管
	屋内倉庫	28	・備品、研修用資材、需要品、書籍、展示学習用品等を保管
	浴室・脱衣室	7	・森林公園を管理する職員や作業員の体の洗浄
	更衣室	15	・職員と作業員の通勤着と作業着の更衣場所
	休憩室	15	・職員と作業員用の休憩室 ・屋外作業を行う作業員の熱中症対策及び傷病者の救護スペースとしても利用
	給湯室	7	・給湯や簡単な炊事機能
共用 部門	男子便所・女子便所 多目的便所	30	・職員の人数に応じた男女別便所を設置するとともに、福岡県福祉のまちづくり条例に基づき多目的便所を設置
	交通部分	91	・玄関やホール、廊下
合計		651	

## (2)建設検討範囲及び建築方法

建築検討範囲は、文化財保護法による現状変更の規制を踏まえ、下図のとおりとします。  
また、算出した諸室の面積を元に、建築方法を「建替え」と「改修・増築」の2案で検討した結果、所要面積が既存建物の延床面積よりも大きかったことから、「改修・増築」は、建築における制約が大きく、計画の実現に支障をきたす恐れがあります。

以上を踏まえ、建築方法は「建替え」とします。

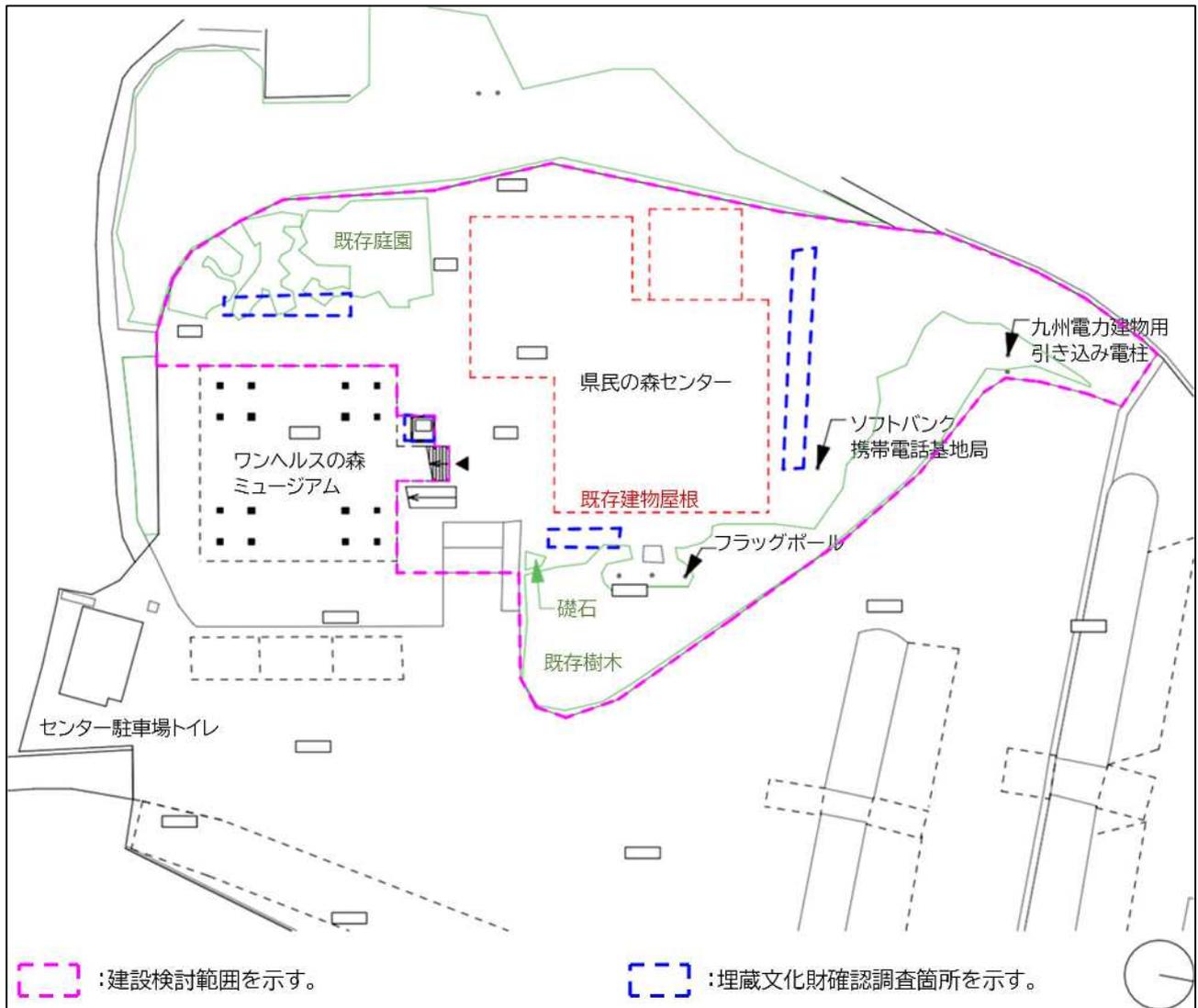


図7 ビジターセンターの建築可能範囲

### (3) 平面計画及び意匠・構造概要

#### ① 平面計画概要

ビジターセンターは、共用部門、展示学習部門、管理部門の3部門に区分します。

表 8 平面計画概要

部門	概要
共用部門	・エントランスは建物中央部に配置し、外部からの視認性及び建物への入りやすさに配慮します。
展示学習部門	・展示学習室と研修室は、可動間仕切等で区切り、一体的に利用できる計画とします。 ・研修室は多人数の出入りに配慮して、屋外広場に面して配置し、外部から直接アクセスできる計画とします。 ・展示学習室と研修室の倉庫は2室兼用とします。 ・バーチャル森林浴体験ルームは、受付がしやすいよう事務室と近接させ、視認性に配慮します。
管理部門	・休憩室は、屋外からもアクセスできる計画とします。 ・管理者の利便性に考慮し、事務室、倉庫、更衣室、休憩室は、集合して配置します。 ・屋外倉庫は、屋内外からアクセスできる計画とします。 ・休憩室及び更衣室は、上足利用とします

#### ② 意匠・構造概要

構造材には、木造建築の先駆的なモデルとなるよう、県産木材 CLT を積極的に使用します。

内装材や家具等には、ワンヘルスの象徴である早生広葉樹のセンダンのほか、県産広葉樹を積極的に使用します。

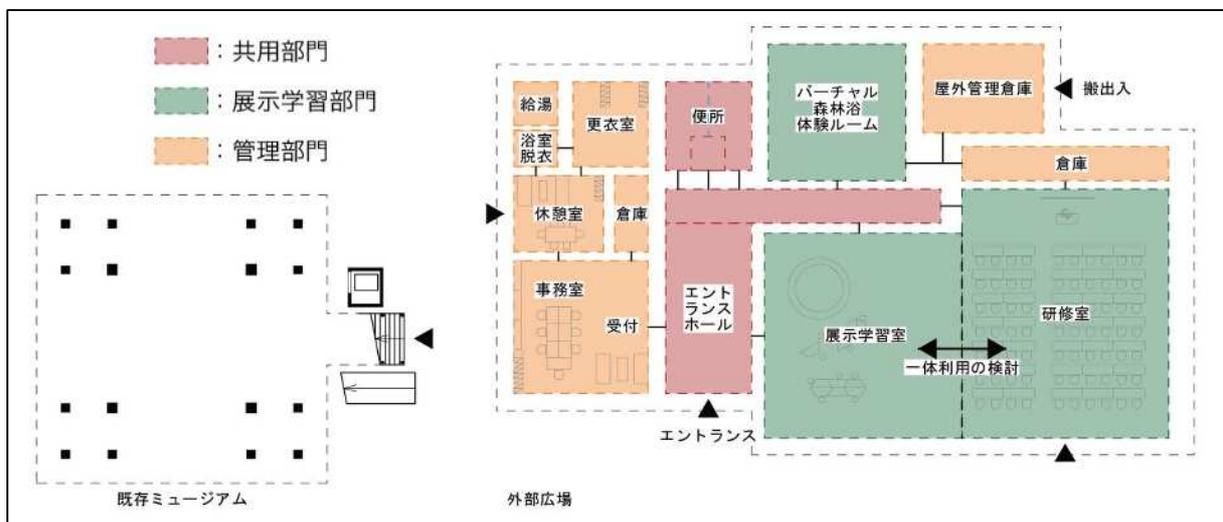


図 8 各所要室のポリウムと関係性のイメージ(案)

#### (4)設備計画概要

##### ① 電気設備計画

基本・実施設計において、建物<sup>※1</sup>、及び外構で必要とする電気容量を算定の上、電気設備を設計する必要があります。

※1 ワンハルスの森ミュージアムや県民の森センター駐車場トイレ、こどもの国広場トイレ、愛玩動物とのふれあいスペースなどの周辺施設を含む

##### ② 機械設備計画

###### ア)給水・給湯設備

現在使用している給排水設備(井戸、配管、ポンプ、受水槽)が老朽化していることから、更新と維持管理を検討する必要があります。

###### イ)排水設備

- ・ 汚水排水は浄化槽を設置の上、適切に放流します。
- ・ 放流等の条件について、宇美町との調整を行う必要があります。

##### ③ 空調・換気設備計画

###### ア)空調設備

- ・ 室内の温熱環境を適切に維持し、省エネルギー性<sup>※2</sup>及び、快適性に配慮した計画とします。
- ・ メンテナンス性を配慮した機器配置とします。

※2 福岡県環境保全実行計画に基づき、省エネルギー化(ZEB Ready 相当以上)を図ります。  
ZEB:Net Zero Energy Building.快適な室内空間を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物

###### イ)換気設備

- ・ 建築基準法及び関係法令を遵守し、室内の空気環境を良好に保つ計画とします。
- ・ 外気温度が15℃～22℃程度となる春秋シーズンには自然換気を行うことで快適な温熱環境となるよう配慮します。

#### (5)造成計画概要

外部広場を、建物東側などに配置します。

### 3.6 イメージ図(案)

ビジターセンターの現時点でのイメージ図は、次のとおりです。  
なお、イメージ図は、基本・実施設計時に修正することがあります。



図9 ビジターセンターのイメージ図(案)

### 3.7 仮設管理事務所

ビジターセンターの整備期間中に、従来の管理運営業務を継続のために設置する仮設管理事務所の位置や規模、機能等を検討しました。

仮設管理事務所は、ワンヘルスの森の管理運営、及び利用者の受付・対応に必要な最低限の機能を持たせます。

#### (1)位置

仮設管理事務所は、県民の森センター駐車場内に設置することとします。なお、仮設管理事務所への電気・水道の引き込みや、ビジターセンターの建設工事のための工事車両のスムーズな往来と来訪者の安全性を考慮し、以下の位置に設置します。



図 10 仮設管理事務所と倉庫の位置

#### (2)構成、規模

##### ① 仮設管理事務所(事務所棟、利用者対応棟)

仮設管理事務所(事務所棟)は、経済性を考慮し、平屋の鉄骨プレハブとします。広さは、現在の事務室と休憩室の合計と同程度(約 65 m<sup>2</sup>)とします。

また、森林浴体験ツアーの受付や説明など、利用者対応を行うための利用者対応棟(約 10 m<sup>2</sup>)を設置します。利用者対応棟は、森の窓口にふさわしく、また、将来建設されるビジターセンターのPRになるよう、県産木材 CLT 造とします。

なお、県民の森センター駐車場トイレが隣接することから、便所は設置しません。

##### ② 倉庫

研修室内の備品等を保管するための倉庫を設置します。倉庫は、経済性を考慮し、平屋の鉄骨プレハブとします。広さは、備品等の保管に必要な面積(約 40 m<sup>2</sup>)とします。

### (3)動線計画

基本・実施設計時に、来訪者の安全と、工事車両のスムーズな搬出入に配慮した動線計画を作成します。

## 第4章 展望デッキの整備計画

### 4.1 施設規模等の検討

#### 4.1.1 建設地概要

展望デッキは、大城林道沿いにある既存展望所に設置します。現在の設置候補地の敷地概要は以下のとおりです。

表9 展望デッキ設置候補地の敷地概要

敷地概要	
所在地	福岡県大野城市大字乙金618-1
土地所有者	大野城市(「県民の森」用地として包括することを市が承諾)
用途地域	市街化調整区域
防火地域	指定無し
指定区域	指定無し
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四王寺山の西側で車道に隣接している唯一の展望所</li> <li>・大野城市からは車で15分程度、四王寺県民の森駐車場(大野城市)から徒歩30分程度</li> <li>・近くに駐車場及び公衆トイレあり</li> </ul>

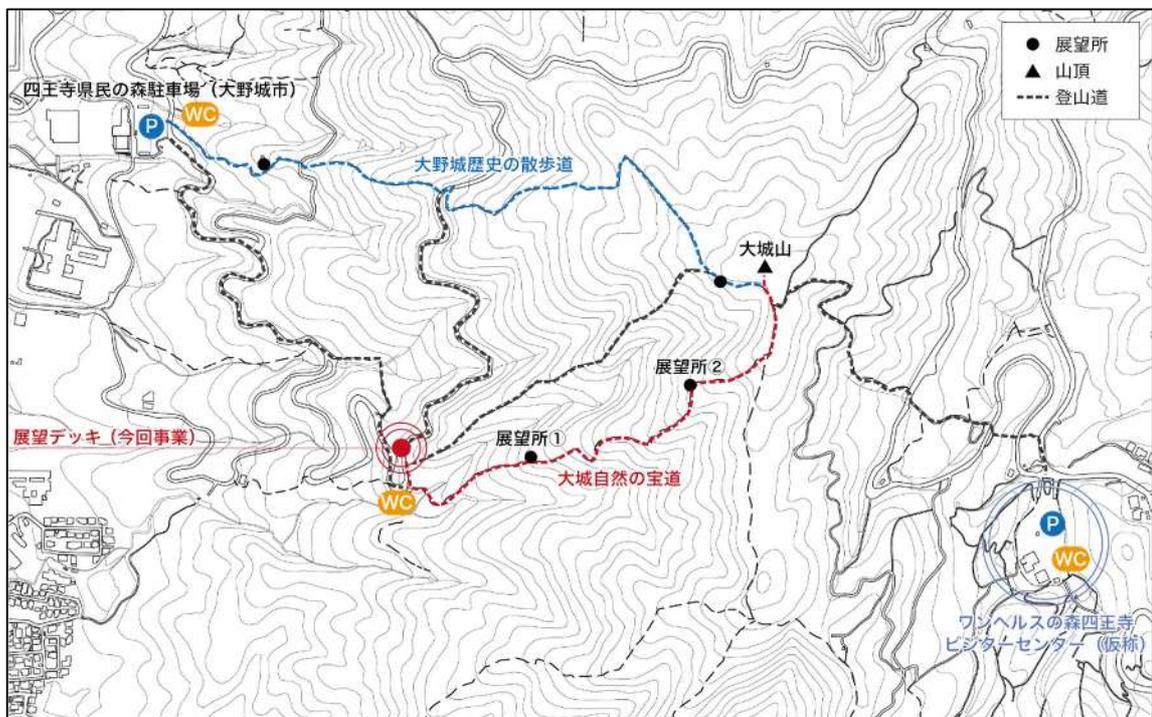


図11 展望デッキ設置候補地の位置

#### 4.1.2 関連法令

展望デッキの整備を行うにあたり、遵守が必要な主な関連法令は以下のとおりです。以下の規制を踏まえ、展望デッキは「建築物」として計画するのではなく、デッキタイプの「工作物」として計画します。

表 10 関連法令

法律名	主な規制内容
森林法	土地の形質変更を行う場合は、変更面積や切土・盛土の高さに関する制限があります(工作物にも適用)
自然公園法	建築物と敷地境界線からの距離に関する規制があります(工作物は適用外)
建築基準法	敷地と公道の接続に関する規制があります(工作物は適用外)
文化財保護法	特別史跡地の現状変更を行う場合は、文化庁長官の許可が必要となります

#### 4.1.3 施設概要

展望デッキに関する施設規模等の条件を以下に示します。

表 11 施設概要

区分	内容
面積	50 m <sup>2</sup> 以下(測量・設計時に検討)
型式	デッキタイプ(工作物)
構造	原則木造とし、センダンを積極的に活用します
用途	展望所
付帯設備	アプローチ
その他 留意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・転落防止対策や日差し避けを検討します</li><li>・既存樹木に配慮します</li><li>・木材の防腐処理の種類や維持管理の容易性を考慮します</li><li>・文化財保護法による現状変更の制限を踏まえ、史跡の価値や景観に配慮し、新たな駐車場や駐輪場の整備は行いません</li></ul>

#### 4.1.4 施設計画

##### (1)配置計画

展望デッキは、切盛の土量が少なくかつ眺望の良い、既存ベンチ設置箇所に計画します。展望デッキは、隣接する道路と適切な離隔距離を確保し、歩行者の安全性に配慮します。



図 12 展望デッキの配置計画

## (2) 平面計画及び構造概要

### ① 平面計画概要

- 福岡空港や博多湾、水城跡などを一望できる配置とし、転落防止対策等、安全性に配慮します。
- 利用者が休憩できるベンチや、自然や歴史、ワンヘルスについて学ぶことができる看板を設置します。
- バリアフリーに配慮した計画とします。

### ② 構造概要

- デッキタイプの工作物を計画します。
- 防腐処理木材を使用するなど、耐久性の高い構造計画とします。
- 崖地に位置することを踏まえた安全性の高い構造形式を採用します。

## 4.2 イメージ図(案)

展望デッキの現時点でのイメージ図は、次のとおりです。  
なお、イメージ図は、実施設計時に修正することがあります。



図 13 展望デッキのイメージ図(案)

## 第5章 概算事業費

概算事業費を以下に示します。

### (1) ビジターセンター(木造平屋:651 m<sup>2</sup>、県産木材 CLT 使用)

表 12 ビジターセンターの概算事業費

区分	内容	概算事業費(百万円)
工事費	解体工事	39
	建築工事	912
委託費	基本・実施設計(地質調査含む)	69
	工事監理	30
	展示物設計・製作	99
合計		1,148

※端数処理の関係により、合計と内訳が一致しない。

### (2) 展望デッキ(木造:50 m<sup>2</sup>)

表 13 展望デッキの概算事業費

区分	内容	概算事業費(百万円)
工事費	設置工事(付帯工事含む)	35
委託費	実施設計	12
合計		47

## 第 6 章 PFI 方式導入の検討

### 6.1 検討方法

「福岡県 PPP/PFI 導入検討基本方針」に基づき、従来方式と PFI 方式の現在価値化後の費用総額の比較による簡易な検討を行いました。以下に概要を示します。

#### 【従来方式】

設計、建設、維持管理、運営を分割し、行政がそれぞれ発注する方式です。

実施内容	設計	建設	維持管理	運営
実施方法	設計会社に委託	建設会社に委託	直営・維持管理会社に委託	直営・運営会社に委託
	公設		公営	

図 14 一般的な従来方式の業務範囲

#### 【PFI 方式】

一般的な PFI 方式は、公共施設等の設計、建設、維持管理、運営等において、民間の資金、経営能力及び技術能力を活用して行う方式です。施設によって、事業コストの削減等ができる場合と、PFI 方式の導入に必要な経費により費用総額が増加する場合があります。

実施内容	設計	建設	維持管理	運営
実施方法	PFI 事業者が事業契約に基づき包括的に実施			
	民設		民営	

図 15 一般的な PFI 方式の業務範囲

## 6.2 検討結果

### (1)経済効果の算定

国土交通省の「VFM<sup>※</sup>簡易算定モデル」を参考に、VFM を算定した結果、VFM は -1.8%となり、PFI 方式を導入した場合の方が、従来方式よりも費用総額が増加することが見込まれる結果となりました。

※VFM:Value for Money.従来方式と比較して、PFI 方式が費用総額をどれだけ削減できるのかを示す割合

### (2)評価結果

施設規模が比較的小さいことから、設計・建設費の縮減効果が限定的であること、また、業務範囲が限定的であることから、PFI 方式の導入による費用縮減効果は小さいと考えられました。

また、PFI 方式は、従来方式に比べて建築物の完成が約1年遅くなることが想定されます。仮設の管理事務所では、ビジターセンターとして求められる機能を十分に果たすことができないため、可能な限り早期にビジターセンターを完成させることが求められます。

以上のことから、ビジターセンターの整備に PFI 方式の導入は適しないと評価し、従来方式を採用することが妥当と判断します。

## 第7章 工程計画

ビジターセンターは、2026(令和8)年度に基本・実施設計を行い、2027(令和9)年度から工事を実施、2028(令和10)年度中の供用開始を目指します。

展望デッキは、2027(令和9)年度に調査・測量・設計を実施し、2028(令和10)年度中の供用開始を目指します。

付帯事務及び業務委託を含む工程計画は、以下のとおりです。

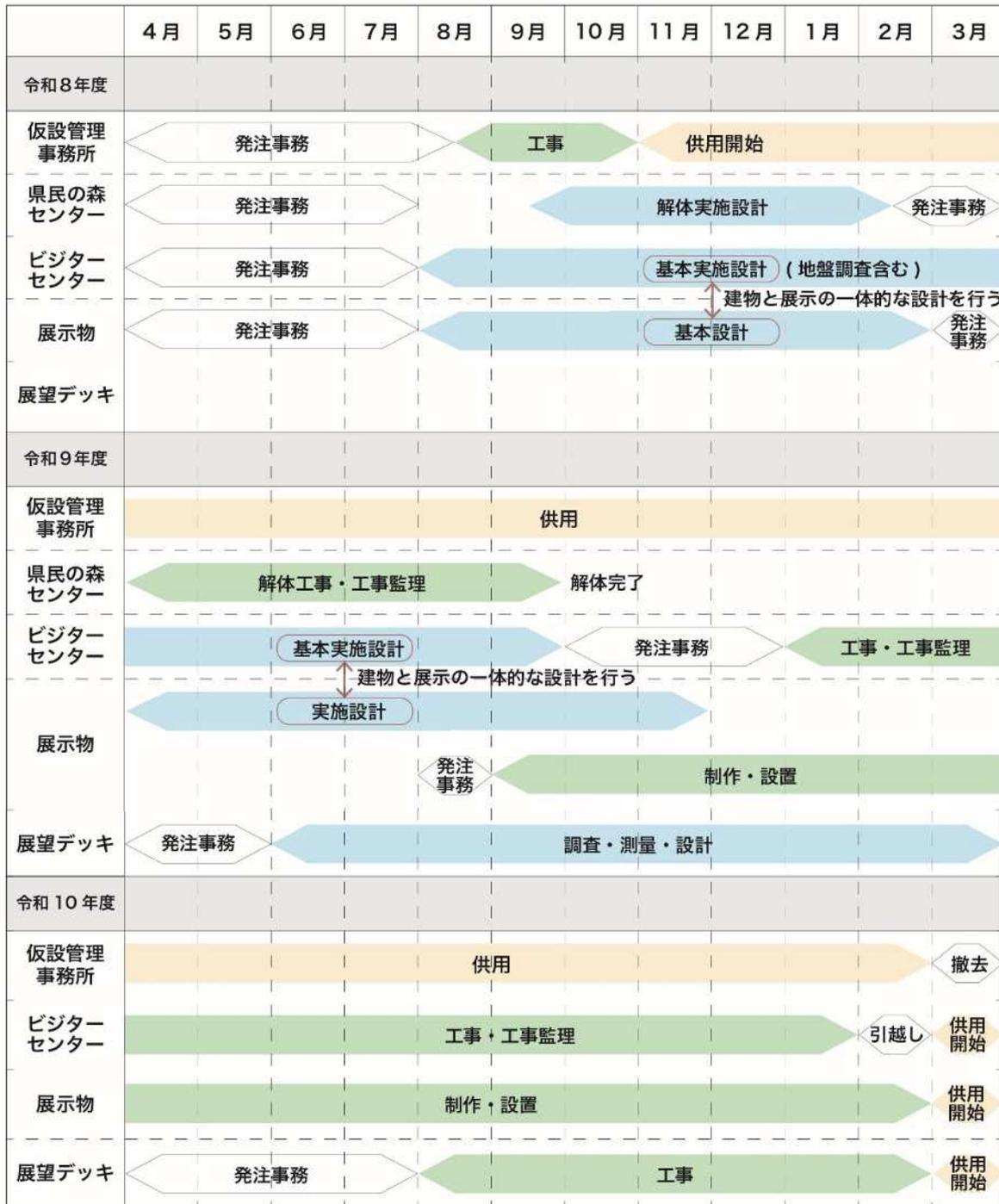


図16 工程計画

## 参考資料

- ・ビジターセンターの基本的性能

ヒジターセンターの基本的性能(「官庁施設の基本的性能基準 令和6年版」による)

項目		分類	本施設の分類	理由	
1. 社会性	地域性	I・II	I	特別史跡内に立地する施設である(施設が立地する地域の特性に配慮)	
	景観性	I・II	II	周辺環境との調和が図られ、良好な景観の形成について配慮する施設である	
2. 環境保全	環境負荷低減	—	—	分類なし(基準⑥による)	
	周辺環境保全	—	—	分類なし(基準⑥による)	
3. 安全性	防災性	耐震	(1)～(12)	(12)	対象施設(12)基準⑩による
			I～IV	IV	重要な財産や危険物を保管、貯蔵していない
	対火災	耐火	I・II	II	重要な財産・情報を保管しない
			I・II	I	不特定かつ多数の人が利用する
	対浸水	構造体の耐風	I・II	II	災害応急対策活動のために機能の維持が必要でない
			I～III	III	災害応急対策活動に必要な施設でない
	耐風	建築非構造部材の耐風	I～III	III	災害応急対策活動に必要な施設でない
			I～III	III	災害応急対策活動に必要な施設でない
	対雪・耐寒	—	—	分類なし(基準⑩による)	
	対落雷	I～III	III	施設自体の保護が必要な施設でない	
	常時荷重	—	—	分類なし	
	機能維持性	防犯性	I・II	II	活動拠点室その他継続的な国家機関としての機能の維持が必要な室を有する施設でない
			I～III	II	事務室、会議室等を有する施設である 基準⑩による
4. 機能性	利便性	—	—	分類なし	
		—	—	分類なし(基準⑩による)	
	ユニバーサルデザイン	音環境	I～III	II	会議室(研修室、バーチャル森林浴体験ルーム)を有する施設である
			I～III	I	研修室、展示学習室など利用者の活動内容等に応じた適切な光環境を確保する必要がある
	室内環境	光環境	I～III	I	来客等による利用者数の大幅な変化又は不定期な利用が予想される施設である
			I～III	I	事務作業を行う室等を有する施設である
	空気環境	衛生環境	I・II	I	分類なし
			—	—	分類なし
	振動	情報処理機能	—	—	分類なし
			I～III	II	1人当たり1大程度の端末機が導入される事務室等を有する施設である
	情報化対応性	情報交流機能	I・II	I	森林浴の効果を視覚化するタブレット端末等を設置する
			—	—	分類なし
	5. 経済性	耐用性	—	—	分類なし
保水性		フレキシビリティ	I・II	II	大幅な施設若しくは室等の用途等の変更が予想される施設でない
			—	—	分類なし
更新性	—	—	分類なし		

<凡例>

基準⑩:官庁施設の環境保全性基準(令和7年改定)

基準⑪:官庁施設の総合耐震・対津波計画基準(平成25年制定)

基準⑫:官庁施設の防犯に関する基準(平成21年制定)

基準⑬:官庁施設のユニバーサルデザインに関する基準(平成18年制定)





「ワンヘルスの森 四王寺ビジターセンター(仮称)」等  
整備基本計画

発行日/令和8年3月

編集/福岡県農林水産部林業振興課

〒812-8577 福岡市博多区東公園 7-7

TEL:092-643-3540 FAX:092-643-3541

E-mail:rinshinko@pref.fukuoka.lg.jp

#### 福岡県行政資料

分類番号 PF	所属コード 4701002
登録年度 07	登録番号 0004